

エサを知る

ヤマメは流れてくる水生昆虫や
川に落ちた陸上昆虫を食べる



アイヌ語名は()内に

❖ 落ち葉がたまるような場所が必要 — ヤツメウナギ ❖



スナヤツメ (トイソソボ) の幼生

スナヤツメやカワヤツメは幼生時代、川底の泥の中にもぐって、泥の中の落ち葉などを食べています。そのため州や川岸の入り江といった、落ち葉などがたまりやすい場所がないと、生きていけません。

ちなみにヤツメウナギの仲間の幼生を「アンモシーテス」といいます。

なお、カワヤツメは若魚になると海に出ますが、このときには他の魚に吸い付いて、体液を吸収するのだといわれます。

❖ 雑食性 — 虫でも草でも ❖

多くの魚、サケ科の仲間やトゲウオの仲間、カジカやハゼの仲間などの多くは水生昆虫や落下昆虫、底生動物といった動物性のエサをとります。

一方コイ、ウグイ、フナ、といったコイの仲間やドジョウ、フクドジョウは、虫など動物の他、植物を食べることができます。

特にウグイは、石の表面についた藻(も)、水生昆虫、死体、死体についた菌類、人間が出した有機物など「何でも」食べます。



ウグイ (スポン、オトウヤツケ)
何でも食べる

❖ エサを食べなくなる ❖



川を遡上するサケ (シロザケ) (チェブ、カムイチェブ)。もうエサはとらない

サケ (シロザケ) は海で成長した後産卵のために川を上りますが、川に入ったらエサをとらなくなると言われています。これはカラフトマスも同じです。また、カワヤツメやスナヤツメも成体になるともうエサはとらないようです。

これらの魚は産卵が終わると間もなく死にます。



カラフトマス (トビウ、エモイ)
川ではエサをとらない



カワヤツメ (ウクリペ)
成体はエサをとらない

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」 川那部浩哉・水野信彦 編・監修
山と溪谷社 1989
「北海道の淡水魚」 稗田一俊 北海道新聞社 1984
「検索入門 川と湖の魚①」 川那部浩哉・水野信彦 保育社 1989

「検索入門 川と湖の魚②」 川那部浩哉・水野信彦 保育社 1990
「図説 魚と貝の大辞典」 望月賢二 監修 魚類文化研究会 編 柏書房 1997
「日本動物大百科 第6巻 魚類」 日高敏隆 監修 平凡社 1998